

25) 当院における神経芽細胞腫マスキリーニング症例の検討

齊藤 浩幸・山際 岩雄  
小幡 和也・安孫子正美  
鷲尾 正彦 (山形大学第二外科)

神経芽細胞腫のマスキリーニングが山形県で行われ始めたのは、1985年からであり今年で7年を迎える。この間当科にて経験した神経芽細胞腫は15例であった。これらの症例について若干の文献の考察を加え報告する。

マスキリーニング陽性例は12例であり、平均年齢は、9.4カ月で、病期は、stage I : 2例, stage II : 5例, stage III 3例, stage IV S : 1例, stage IV B : 1例であった。非マスキリーニング症例は3例であり、平均年齢71.7カ月で、病期は、stage III : 1例, stage IV A 2例であった。

マスキリーニングの実施以後、当科における症例は、1歳未満例の増加、stage I, II, IV S 例の増加傾向にあり、早期発見・早期治療の目的を一応達成していると考えられる。これからの課題としては、早期発見例の化学療法を軽減し非マスキリーニング症例のより早期発見をいかに進めるかにあると考える。

26) 東北地区プロトコール施行後根治手術可能となった Virchow 転移進行神経芽腫の1治験例

大谷 哲士・八木 実 (太田綜合病院付  
奥山 直樹 (属太田西ノ内病  
院小児外科)  
太神 和廣・香取 竜生 (同 小児科)  
白岩 邦俊 (白岩クリニック)

進行神経芽腫に対しては、強力な化学療法を施行後根治術を施行し良好な結果が得られている。今回我々もVirchow 転移にて発見された Stage IV-A の進行神経芽腫に対して東北地区プロトコールを施行後根治術可能となった症例を経験したので報告する。症例は5歳の女児。左鎖骨上の腫瘤を主訴に受診し生検の結果転移性悪性腫瘍の診断となり、腹部 CT にて左副腎原発の神経芽腫と診断された。インフューザーポートを埋め込み東北地区プロトコールに従い化学療法を3クール施行後原発巣は著明に縮小し根治術を施行した。その後も化学療法を継続して施行しているが、術後7カ月経過した現在、再発の兆候はなく今後骨髄移植を予定している。

27) 膵炎で発症した先天性胆道拡張症の検討

金田 聡・和田 寛治  
田島 健三・若桑 隆二 (長岡赤十字病院  
岡村 直孝・八木 伸夫 (外科)  
松田由紀夫 (同 小児外科)

当院において1984年から1991年までの8年間に先天性胆道拡張症は7例あり、その年齢は0~5歳が2例、6~10歳が4例、11歳以上が1例、性別は男児2例、女児5例であった。初発症状として全例に腹痛がみられたが、他に嘔吐、悪心、腹部膨満を訴える場合があった。うち、6例に高アマラーゼ血症を認め膵炎による発症が疑われた。急性膵炎重症度分類によれば、軽症5例、中等症1例、重症1例であった。また、膵・胆管合流異常は全例に認められた。拡張胆管の type は、紡錘型4例、囊胞型3例であった。

このうち、重症膵炎による発症した先天性胆道拡張症の1例を呈示する。症例は2歳女児。腹痛にて発症。入院後、CT, ERCP により先天性胆道拡張症の診断が付き、保存的治療により膵炎のおさまるのを待ち根治手術を行った。現在、外来にて経過観察中である。

ビデオ・セッション

1) 痔核に対する私の手術法

三輪 浩次・浅井 正典 (新潟臨港総合病院  
外科)

2) 乳癌に対する広背筋を用いた一期的乳房再建手術

三浦 宏二・高野 征雄 (秋田赤十字病院  
工藤 進英・日下 尚史 (外科)

3) 若年者自然気胸に対する 3cm "Mini-thorac" Bullectomy

山口 明 (国立療養所西新潟  
病院外科)

4) 小児における中心静脈カテーテル挿入手技の実際

内藤 真一・岩淵 真  
大沢 義弘・内山 昌則  
広田 雅行・広川 恵子  
内藤 万砂文・大谷 哲士  
金田 聡 (新潟大学小児外科)